

本県ゆかりのステンドグラス作家

今野満利子さん逝去



伝統貫いた職人人生

本県ゆかりのステンドグラス作家、今野満利子さんが先月、77歳の生涯を閉じた。共愛学園高在学時に洋画家の清水刀根に師事。その後、フランスで伝統的な技術を学び、「職人人生」を全うした。

都内のギャラリーで出合ったステンドグラスの美しさに魅せられ、1974年に本場フランス行きを決断。帰国後は都内でステンドグラス教室の講師をしながら制作を続け、母校の共愛学園や美術館、教会などに多くの作品を残した。

40年間連れ添った美川暢宏さん（82）＝東京都＝は「彼女はとにかくステンドグラスが好きだった。職人として技術を磨くのが肝心と

いまの・まりこ 1942年、旧満州（中国東北部）生まれ。洋画家の清水刀根に入門。女子美術大卒業後、図工科教諭や画廊勤務を経て渡仏。同国立高等工芸美術学校でステンドグラス作りを学んだ。9月12日死去。

「2010年頃には上海へ渡り、制作指導や現地の中国人、フランス人と共同制作を行った。中国でステンドグラスを広めた功績をたたえ、上海の美術館に記念室を作る計画があるという。今野さんの思いは国境を越え、作品とともに生き続けている。」

考えていたように、『私はアーティストではなく職人だ』とよく言っ



今野さんが制作したステンドグラスが飾られた室内
＝共愛学園中高、視聴覚室